

会議・打合せ記録

会議録	平成21年度 第3回豊田市公共交通会議
次第	<p>1. 開会</p> <p>2. 議事</p> <p>【協議案件】</p> <p>(1) 岡崎市額田地域(下山地区)乗合タクシー「ささゆりバス」の運行計画の変更について</p> <p>(2) 豊田市基幹バス、地域バス等路線の再編・改善等について</p> <p>①川口・飯野線 ②おぼら桜バス</p> <p>(3) 道路拡幅工事に伴う路線及び広瀬バス停の位置変更について</p> <p>(旭・豊田線、さなげ・足助線、福祉バスくささゆりコース、石野交流館コース)</p> <p>【報告案件】</p> <p>(1) 道路改良工事に伴う迂回運行期間の延長について</p> <p>(2) 運行ダイヤの改正について</p> <p>(3) 臨時便の運行について</p> <p>(4) 豊田市基幹バス及び地域バス等路線の利用状況について</p> <p>3. その他</p> <p>(1) 次回会議の開催予定について</p> <p>4. 閉会</p>
日時	平成22年2月10日(水) 15:00~16:30
場所	豊田市 ITS 情報センター「みちなびとよた」会議室
出席者 (敬称略)	<p>【委員】 荻野 弘(豊田工業高等専門学校)</p> <p>藪押 光市(豊田商工会議所)</p> <p>野田 宏治(豊田工業高等専門学校)</p> <p>中條 善朗(豊田市区長会)</p> <p>澤田恵美子(豊田市消費者グループ連絡会)</p> <p>三浦 久芳(名古屋鉄道株式会社)</p> <p>梶原雅一郎(愛知環状鉄道株式会社)(代理:安達)</p> <p>藤田 信彰(名鉄バス株式会社)</p> <p>堀合 正行(豊栄交通株式会社)(代理:境)</p> <p>牛田 昌弘(愛知県タクシー協会豊田支部)</p> <p>長崎三千男(愛知県バス協会)(代理:上野)</p> <p>小林 裕之(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局)(代理:加藤)</p> <p>土屋 人士(愛知県警察 豊田警察署)(代理:大野)</p> <p>本多 幸治(愛知県警察 足助警察署)(代理:伊藤)</p> <p>宮崎 秀嗣(愛知県地域振興部交通対策課)(代理:柴山)</p> <p>上田 享二(愛知県豊田加茂建設事務所)</p> <p>林 正美(愛知県豊田加茂建設事務所 足助支所)</p> <p>山田 正秋(豊田市都市整備部)</p> <p>【事務局】 豊田市 都市整備部交通政策課</p>
資料	<p>1. 次第・配席図</p> <p>2. 岡崎市資料、資料1~7:豊田市公共交通会議 平成21年度第3回会議資料</p>

(要約)

2. 議事

(協議案件)

(1) 岡崎市額田地域(下山地区)乗合タクシー「ささゆりバス」の運行計画の変更について

- 岡崎市 資料に基づき説明。
- 委員 Aコープと岡崎市下山地区を結ぶ路線の運行ダイヤはどのような点を考慮して設定されましたか。
- 岡崎市 午前便はAコープでの買い物時間を考慮してダイヤで午前便を設定しました。また、午後便はAコープバス停付近に病院がありますので、買物後、通院するという利用形態を想定し設けました。
- 委員 豊田市へのバス乗り入れ中止の理由は利用者が少ないためということですが、乗り入れ中止の基準となる乗降者数の境目は何人ですか。
- 岡崎市 特にないです。バスを運行している岡崎市下山地区の住民にアンケートしたところ、Aコープよりも岡崎市洞町にあるショッピングセンターに行きたいとの要望が多数でした。そのため、豊田市へのバス乗り入れを中止し代わりに要望の多かったショッピングセンター付近へ新たに乗り入れます。

(2) 豊田市基幹バス、地域バス等路線の再編・改善等について

- 事務局 資料に基づき説明。
- 委員 川口・飯野線は路線沿線の学校への通学利用を見込み運行ダイヤ改定し、利用者数が少なく学校が休みである土休日の運行を中止するということでした。学校行事等で特別にバス運休日である土休日に路線沿線の学校に通う生徒が出校する必要がある場合、どのような対応を考えていますか。
- 事務局 現在土休日に路線沿線の学校に生徒が出校する場合の特別な対応は考えていませんが、地域からの要望があれば臨時便の増発等対応を検討します。
- 委員 川口・飯野線以外の路線でも、路線沿線の学校で行事等がある場合は、行事に合わせて通常ダイヤの便以外に特別にバスを運行する必要性が生じてくるものが考えられます。各バス路線沿線の学校の行事等に合わせて特別にバスを運行する必要があるか調査していただき、運行の検討をお願いします。
- 事務局 わかりました。
- 委員 おばら桜バスのバス停増設は、運行曜日の変更によって一部利用者が不便になることが考えられるための代替措置ですか。今後も要望があればバス停増設しますか。
- 事務局 運行曜日の変更とは関係なく今後も要望があればバス停増設を検討します。
- 委員 運行曜日変更によって、バス利用者数が増加する根拠はありますか。
- 事務局 公共施設の閉館日は月曜日が多いので、公共施設が開館している木曜日への運行曜日変更により利用者が増加すると考えています。
- 委員 小原地区内にある診療所の休診日は木曜日ですが、運行曜日の変更により診療所の休診日をバスの運行曜日変更に合わせて月曜日に変更することは可能ですか。
- 事務局 診療所関係者に今回の変更に対応して診療日の変更等対応が可能か聞いたところ、事前に運行内容等を教えてもらえれば個別に対応すると聞いています。

- 委員 では、診療所休診日は木曜日だが、バスの運行曜日を月曜日から木曜日に変更した場合、バス運行日に合わせて診療所は月曜日休診に変更するのですか。
- 事務局 休診日変更等診療システムの変更までは言及しておらず、バス運行曜日の変更に伴って診療日の変更をする必要性が生じた患者には個別に対応してくださるとのことです。
- 委員 運行曜日に合わせた診療所休診日は変更できないということですね。
- 事務局 はい。
- 委員 運行曜日変更により、現在と全体の利用者数は変わらず各運行曜日で利用者数が分散すると考えているのか、運行日が増加する分利用者が増加すると考えているのかどちらですか。
- 事務局 祝日は運休しているため、祝日と重なりやすい月曜日から木曜日への運行曜日変更により、運行日が増加します。その分、月曜日でなく木曜日を運行曜日とした場合、利用者が増加すると考えています。木曜日が1日あたりどのくらい利用してくれるかは推定していませんが、月曜日を運行曜日としている現在よりもの木曜日を運行曜日としたほうが曜日あたりの利用者数が増加すると考えています。
- 委員 では、月曜日を運行曜日としている現在よりも、木曜日を運行曜日とした場合曜日あたりの利用者が増加し、他の運行曜日と同じくらい利用されるようになると考えているのですね。
- 事務局 はい。

(3) 道路拡幅工事に伴う路線及び広瀬バス停の位置変更について

(旭・豊田線、さなげ・足助線、福祉バス〈ささゆりコース、石野交流館コース〉)

- 事務局 資料に基づき説明。
- 委員 バス待合所とバス停が少し離れているが、待合所においてバスに乗り遅れることはないですか。
- 事務局 基幹バス路線は広瀬バス停で停車時間を5分設けており、バスがバス停に到着してから待合所からバスに乗車しても乗り遅れることはないと考えています。福祉バスバス停は待合所が近いため、乗り遅れることはないと考えております。
- 委員 バスターミナル内へ送迎等一般車の乗り入れが予想されますが、バス運行に支障が生じないよう対策を考えていますか。
- 事務局 現地に注意喚起の看板を設置する等対策を検討します。
- 委員 バス運行時間帯以外のバスターミナルの管理をどのように考えていますか。
- 事務局 バス運行時間帯以外におけるバスターミナルの施錠等特別な管理・対応を検討していませんが、必要であれば関係各者様よりご指導いただければと思います。
- 委員 夜間暴走族の集合場所等に利用されることが想定されますので、できればバス運行時間帯以外に車両等がバスターミナル内に進入できないよう、施錠等対応を検討していただければと思います。
- 委員 バスターミナル内への進入通路は道路敷が入っていますか。
- 事務局 バスターミナル南側は県道で西側からのバスターミナル内へ進入する道路は通路です。

(報告案件)

- (1) 道路改良工事に伴う迂回運行期間の延長について
- (2) 運行ダイヤの改正について
- (3) 臨時便の運行について

- 事務局 資料に基づき説明。
- 委員 12月のナイト便実施時に、さなげ・足助線は、なぜより需要が多いと考えられる百年草行きではなく豊田厚生病院行きを運行したのですか。
- 事務局 足助地区の活性化を考え、足助地区で飲食等をし、さなげ・足助線を利用して帰宅してもらえるよう豊田厚生病院行きを運行しました。
- 委員 豊田市街からナイト便を運行するだけでなく、12月実施時のように郊外部からの便でナイト便を実施することで活性化を図るという考え方はとても素晴らしいことだと思います。
- 委員 紅葉等観光客が多く集まるイベントに合わせてナイト便を実施すれば、紅葉観賞後に各地区での滞在可能時間が増加し活性化が期待できるのではないのでしょうか。
- 事務局 これまで紅葉等に合わせ関係各路線で増便等の対応をしましたが、豊田市発便だけでなく、各地区発の便についてもナイト便のような臨時便を検討します。
- 委員 四季桜に合わせて小原地区発の便にてナイト便を実施するのもよいかもかもしれませんね。

- (4) 豊田市基幹バス及び地域バス等路線の利用状況について

- 委員 利用者数の増減を割合ではなく実人数で示すと変化がわかりやすいかもしれませんね。
- 事務局 次回から対応します。
- 委員 個々の路線においてなぜ利用者数が増減したか検証していますか。
- 事務局 全体的な原因としては、基幹バスは新型インフルエンザのため休校する学校が多かったため通学利用者が減少し増加が鈍化したと考えております。地域バスについては、地域バス全体利用者の大半を占める高岡ふれあいバスが、沿線にある民間企業寮の住民が減少し利用者数を大きく減らしたためと考えております。
- 委員 ある学校で生徒の通学手段を調査したところ1,000人中150人が送迎でした。往復で考えると、学校前の通行量が300台分あることになります。なぜ、送迎の生徒が多いのか原因を考えると、治安上の問題があるのではないのでしょうか。バス停環境を改善する等して安心してバスを利用できるようにすることで、送迎からバス通学手段へ転換を図り、渋滞を減らし、またバス利用者も安定的に増加していくのではないのでしょうか。

3. その他

- (1) 次回会議の開催予定について

- 事務局 次回会議は、平成22年5月～6月頃に平成22年度第1回会議の開催を予定しています。